

「結果の分析と指導の改善」

【国語】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「話すこと・聞くこと」については、話の内容を正しく聞き取る力や話し手の説明の仕方の工夫を正しく聞き取る力をみる問題では、正答率が90%程度である。

話す相手や場に応じて、話し方を工夫する力や、事実と意見との関係に注意して話す力をみる問題では、正答率が60%程度である。

「書くこと」については、課題や課題に関する情報を収集することや、課題に関する情報を正確に把握して整理する力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

グラフや図表等からわかったことを根拠として使い、自分の考えについて、決められた字数で書くことをみる問題では、正答率が70%を下回っている。

「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を正しく理解しながら読む力や、文章の展開に即して内容をとらえ、目的に応じて要約する力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

文章の展開を確かめながら内容をとらえる力をみる問題では、正答率が40%を下回っている。

「言語事項」については、部首や同音異義語の理解、古文の仮名遣いや文の成分の理解をみる問題では、正答率が90%を上回っている。

漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が60%を下回るものがある。

2 結果の分析と指導方法の工夫改善

(1) 正答率が高いが、留意しなければならない問題の例

「書くこと...課題に関する情報を正確に把握して整理することができる。」

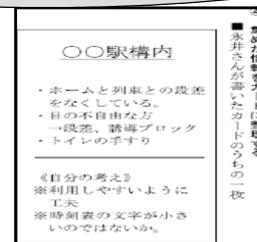
< 問題 > ㊦ (三)

基礎学力UPのカギとなる問題

～「つまずき」とその解決策をさぐる～

のカードの書き方の良い点として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

- ア 気付いたことと考えたこととを書き分けている。
- イ 見たことと聞いたこととを書き分けている。
- ウ いろいろな調べ方で集めた情報をまとめている。
- エ 参考にした文献名を出典として記している。



< 結果 > ㊦ (三) 正答率 85.7% (正答・・・ア)

< 分析 >

この問題は、「全ての人が安心して生活できる街」をテーマとしてレポートを作成するために集めた情報を正確に把握して整理することができるかをみる問題である。正答率は80%を超えるが、無解答の割合が2%近くあり、他の選択肢の問題と比較してやや多い。

この要因としては、集めた情報の整理の学習、特に、カードに整理をするなどの学習について、きめ細かさに課題があると考えられる。つまり、情報の整理についての学習において、どのような整理の仕方があるのか、また、整理の仕方を工夫することが、その後の記述にどのように生かされるのかということについて確認する指導等に課題があると言える。

< 指導方法の工夫改善 >

材料を分類、整理して文章を構成する指導において、分類や整理の仕方や構成の仕方とともに、その効果を丁寧に指導する。

新学習指導要領解説国語編P32には、「『集めた材料を分類するなどして整理する』ことは、

問題点を見いだしたり、自分の考えをまとめたりするために必要なだけでなく、文章の構成を考える上でも効果的である。」とある。ここでも述べられているように、分類、整理することと文章の構成を考えることは強い関連がある。しかも、これらは論理的でわかりやすい文章を書く上で、大変に重要な学習である。

しかし、分類や整理の仕方や構成の仕方についての指導は、学習プリントに示された分類や整理の形式や、構成の形式に記入する活動のみが設定され、その活動の意味や効果についての理解に課題があると考えられる。なぜ、学習プリントに示された分類や整理の形式を使うのか、また、なぜ学習プリントに示された構成にするのかについての意味や効果を確認する指導が必要である。また、書き上げた文章を評価する際、分類や整理、構成について考えたことが生かされていることを確認し、評価することが大切である。

(2) 正答率が低く、留意しなければならない問題の例 1

「読むこと...文章の展開を確かめながら内容をとらえることができる。」

<問題> 四 (四)

山田さんは、筆者の主張をよりの確にとらえるために、主張に至るまでの説明の流れを明確にしようとして、1段落に示されている「失われた漁場がもどった」理由について、次のようにノートにまとめました。 の空欄に当てはまる部分を問題文から十字以内で抜き出さない。

海藻や植物プランクトンが育つ
動物プランクトンや小魚が育つ
大形魚が育つ
失われた漁場がもどる

【腐植土の三つの役割】

① 森林における水の調整作用を行う

② 海の生物を主から守る

③

④ 失われた漁場が戻ったのは、森林再生により、腐植土が生み出され「緑のダム」が復活したから。

<結果> 四 (四) 正答率 35.4% (正答...海の生物を育てる)

<分析>

この問題は、「腐植土の三つの役割」について、文章の展開を確かめながら内容をとらえ、本文中から該当する部分を抜き出すことができるかをみる問題である。正答率は35%程度と非常に低く、無解答率も18%を上回っている。また、誤答の傾向としては、「海の生物を育てる大事な役割がある」と書き抜いている生徒が多く見られた。

この要因としては、説明文の学習で、内容のまとまりを確かめる学習や、短い表現や抽象的な表現で整理する学習が不十分であることが考えられる。特に、並立して述べられている事柄と、時間等の順序に基づいて述べられている事柄を区別することや、区別をするために整理の仕方を工夫することが不十分であることが考えられる。

<指導方法の工夫改善>

具体的な事例や詳細な説明と、そうした内容をまとめた表現との対応に目を向けることができるよう配慮する。

このことは、第1学年の指導事項の「文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」に関連する改善点である。また、第2学年の指導事項の「ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。」や「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」に関連する改善点でもある。

例えば、第1学年において、要約や要旨の学習においては、要約や要旨を文章の構成や展開と関連付けるように配慮することが大切である。そして、要約したり要旨をまとめたりする効果として、文章の構成や展開が理解しやすくなることを確認することなどが期待される。また、要約や要旨が正しいかどうかを確かめる過程において、具体的な説明との対応を再度確認する時間も適宜設定することが期待される。

正答率が低く、留意しなければならない問題の例 2

「読むこと...文章の構成を正確にとらえることができる。」

<問題> 四 (三)

さらに山田さんは、それぞれの要約した文をもとに筆者の主張をとらえるために、文章の構成について考えようとしてきました。筆者が文章の構成の面で工夫していることとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

ア いろいろな人の考え方を具体的に挙げ、最後に自分の考えを述べることで主張を明確にしている。

イ 問題提起をすることで、読者の興味をひきつけ、事例を挙げて説明しながら主張を明確にしている。

ウ 最初に結論を述べ、その後の各段階でそう考えた理由を一つずつ解決策とあわせて主張を明確にしている。

エ 「起承転結」の組み立てを意識して、時間の流れをさかのぼりながら主張を明確にしている。

<結果> 四 (三) 正答率 64.6% (正答・・・イ)

<分析>

この問題は、文章の構成を正確にとらえることができるかどうかをみる問題である。正答率は65%をやや下回り、文章の構成の工夫についての理解について課題がある。誤答の傾向としては、アやウを選択した生徒も多く、頭括型や尾括型という文章構成を当てはめて考えようとしたことが予想される。

この要因として、二つのことが考えられる。一つ目は、選択肢に示した構成の工夫を具体例に当てはめて理解することができないことである。そして、二つ目は、文章全体の分量が多いため、全体の構成を考えることが難しいためである。

<指導方法の工夫改善>

ある構成の文章を学習する時、同様の構成を持つ他の文章を提示し、共通していることや構成の効果を指導する。

前述したように、要約や要旨と文章構成については、関連させながら学習を進めることが必要である。同時に、ある構成の文章を学習するとき、同様の構成を持つ他の文章を提示することが有効である。そして、学習した構成の特徴が、他の文章でも使われていることを確認することや、またその効果を確かめたりすることで、文章の構成の工夫として、一層、実感でき、理解が確かになるといえる。

さらに、第3学年の指導事項である「複数の文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること」に結び付けるためにも、効果的である。複数の文章を読み比べる学習は高度である。そのため、きめ細かな段階を設定することが期待される。

3 分析を踏まえた指導改善事例

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16～H18)及び授業改善推進プラン(H19～H21)」を参照する。

(http://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/gakuryoku_suisin/top/index.htm)

例 : 平成20年度 第1学年「真実を語る レポートにまとめる」

・効果的な表現の仕方を理解し、表現を吟味しながら文章を書く指導の工夫改善について取り組んだ実践。

例 : 平成21年度 第3学年「説得力のある文章を書こう」

・関心のある事柄について批評する文章を書くことを通して、説得力のある文章を書く力を高める指導の工夫改善について取り組んだ実践。